

謝 辞

信州の山々を鮮やかに彩り、里には多くの実りをもたらす季節となりました。この佳き日に私ども二名は修了を迎えることができました。

本日は、私どものために厳肅な修了式を執り行っていたいただき、誠にありがとうございます。また、ご多用中にもかかわらずご臨席を賜りましたご来賓の皆様、先生方、経営大学院職員関係者の皆様、そして在校生の皆様、修了生を代表して心より御礼申し上げます。

私の母校でもあるこの工学部のキャンパスに、再び戻ってきたのは二〇一五年四月のことでした。地方創生が叫ばれる中、大都市圏と比して、地理的、人的など様々な面でハンデを抱える地方において、如何にして新たな道へ踏み出しイノベーションを実現していくか、この問いに対する答えを見出すことが、私が本大学院の門戸を叩いた目的でした。

この二年半を通じて本大学院では、先生方より熱心なご指導を賜り、座学と演習によって、自らの知識の体系化と、新たな視点や知見の獲得を進めることができました。

また、多様に富んだ同級生たちと、互いに刺激し合い、共に励まし合いながら取り組めたことで、辛く苦しい時にも、「壁」から逃げることなく乗り越えることができたのだと感じております。年末年始も昼夜問わず、また徹夜までして、時には喧嘩寸前まで議論合いながら演習に取り組んだことが、今では懐かしい思い出です。

そして、それら一つ一つの経験が、私たちそれぞれに深い学びを与えていたのだと、今になって実感します。このようなかけがえのない貴重な時間を過ごす切っ掛けを与えて下さった先生方に心より感謝申し上げます。

私自身としては、本大学院によって二つの目に見える成果を得たと自負しております。一つは、本学で出逢った仲間たちと共に、国内で初となる高校教育における新たな学習モデルを立上げ、県内で事業化にまで漕ぎ着けたことです。もう一つは、新たに特定非営利活動法人を設立し、特定課題研究においてその法人の戦略を検討し組織づくりの礎を築いたことです。このような二つの大きな新たな道を築けるにまで至ったことが、本大学院が在学中に私に与えて下さった価値であると感じております。

今後は、本学で学んだ「三つの壁」を肝に銘じ、これらをイノベーションに繋がられるよう実践していく決意であります。

こうして本日、修了式を迎えることができたのも、先生方、職員関係者の皆様、そして素晴らしい先輩や同級生、後輩の皆様のおかげと修了生一同心より感謝申し上げます。

最後に、信州大学経営大学院の益々のご発展と、諸先生方、職員関係者の皆様のご健康とご活躍を祈念し、謝辞とさせていただきます。

二〇一七年十月一日

信州大学経営大学院イノベーション・マネジメント専攻

修了生代表 永田 将克